

人間・教育・社会

令和5年3月9日

於：豊田工業大学

村上 陽一郎

「人間」になる前

第一の子宮のなかでの 胎児の外界認識
すでに親の声を聴き分ける
退屈凌ぎの指しゃぶり

新生児

新生児の模倣行為

ミラー・ニューロンの働き？

人間——人と人との間

人間は早産する哺乳類である

Adolf Portmann (1897~1982)

協働哺育ぬきに新生児は生きられない

哺育共同体は「第二の子宮」である

第二の子宮の中で 子供は 生きていくために必須の

下準備を積み重ねる

哺育共同体の強制力

人は 第二の子宮のなかで学ぶこと
行動様式、言語、価値観、倫理観などなど
を通じて 「人間」に造られる
ドイツ語の <Bildung> (教養) = building

ただし 人間には その学びの枠組みに
疑問を持ち そこから抜け出す自由を持つ

言葉の機能

コミュニケーションの道具である前に
認識の道具である

虹は七色？

イヌイットの<雪>は 約三十語

言語を学ぶことは 即ち「人間」になること
そこから はみ出ることとは？

should be this vs could be that

日本語にない言葉

もっとほかのようであり得る選択肢 = alternative

この自由を発揮させることを

どこで どのように 学ぶのか

頑固親父 対 物わかりの良い母親

- 1 反発力を利用する方法
既存の価値を曲げず
強力に押し付ける → 反発を導く
- 2 自発力に頼る方法
早くから他の可能性を示唆し
教導する → 共同体の「弱者」となる

第三の途はないのか

歴史（時間移動）と旅行（空間移動）

○歴史は 他の可能性を 訪れ 実体験する現場の一つ
人々は 現在（this）とは異なった枠組みのなかで
判断し、行動する

○旅行もまた然り

Robert Frost(1874~1963) < the road not taken >

アリストテレス曰く（形而上学）

知のあり方

感覚 → 経験 → 技術 → 哲学

動物も → 経験家 → 技術家

（職人）

（棟梁）

経験から普遍的な側面を取り出し

物事の理由にまで迫る

従って 教えることができる

観照（theoria）

必要に基づかない「暇（scholē）」のための」

知の追求 → 哲学（philo+sophia=愛知）

「すべての人間は 生まれつき 知ることを欲する」（人間性の本質）